

## 政務活動費活動報告（視察）

(1) 視察先：

大津市環境部廃棄物減量推進課

(2) 参加者：

日本共産党彦根市議員団（山内善男、山田多津子）

(3) 日時：

2016年7月29日（金）午後1時30分～3時30分

### 【1. 視察目的】

現在、当市を含む4町（豊郷・甲良・多賀・愛荘）を対象にした広域ごみ焼却施設の施設用地の建設公募が行われているが、なかでも彦根市の一人一日当りのごみ排出量は県下で最も多い状況が続いている。ごみ減量の成果をうみだすことは、結果として焼却施設の規模を縮小することであり、環境を守ることにもつながる。

大津市は平成26年度における平成19年度比で、約20%のごみ減量化を達成しており、その取組を詳細に視察することで当市に活かしていこうとするものである。

### 【2. 結果報告】

大津市では

(1) 焼却施設の老朽化に伴う修繕費の増加と年間処理量が急激に低下していること。

(2) 焼却施設の3施設から2施設に縮小することが確定したこと。

によってごみ減量化に早急に取り組む必要性に迫られ、平成25年9月に「大津市ごみ減少実施プラン」を策定された。

内容は家庭系・事業系合わせて年間11,000トﾝ（H24年度比較）の減量化を28年度までに達成しようとするものでした。

具体的な内容については

家庭系ごみ

(1) 紙ごみの行政回収の開始

(2) プラスチック製容器包装の収集日を拡大

(3) 大型ごみの施設への搬入方法の変更と搬入量の制限

(4) びんの色別収集を開始

事業系ごみ

(1) 産業廃棄物の徹底した排除

(2) 大型ごみの施設への搬入量を制限（施設での搬入物検査を実施）

結果として

家庭系ごみはH19年度比で12%減量

持ち込みごみは " 33%減量

合わせて約20%の減量（H19年度比 20,841トﾝ）をH26年度で達成した。

### 【3. 考察】

- 1、 大津市のごみ減量化の取り組みは、行政が主体となって減量化施策のプラン（「大津市ごみ減少実施プラン」）を作成し、H19年度比、20%の削減目標をH28年度までとしたが、H26年度の1年間で目標を達成した。
- 2、 主に家庭系ごみ減量化では、プラン作成直後、すべての自治会長に対して周知するために小学校単位で開催されていた自治会長会議に出向き（36小学校区）、また各自治会に直接出向いた数は50～60自治会にもなったと聞いた。  
紙ごみの集団回収だけでなく、行政回収を開始。さらにプラスチック製容器包装の収集日を拡大。びんの色別収集を開始しリサイクル率の向上に寄与する施策を拡大した。
- 3、 事業系ごみについては、自治体に義務のない産業廃棄物を徹底排除するために、マニフェスト用紙にごみ排出事業者名の記入などを義務付け提出させる様式を作成し提出させる。（生ごみ、木くず、繊維くず、紙の4種類のみの受け入れ）  
パッカー車の展開調査を月、2～3回行い、不適正なごみ搬入に対して指導を強化している。  
大型ごみの施設への搬入量を、持ち込みは5点までとして制限したことで搬入量が減少した。
- 4、 以上のことからわかるように、当局自身がプランを作成しやりきる姿勢になるかどうか、減量目標を達成できるかどうかの試金石であること。そのためには市民の協力を得るために、徹底して市の方針を説明し尽くすこと。  
事業者には「適正処理の手引き」を作成し、理解を求めると同時に、パッカー車の展開調査など、不適正な利用には徹底した姿勢で臨むことなど、教訓としなければならないのではないかと。  
一方で、大型ごみの持ち込み制限などで、不法投棄が増大しないかが心配された。

以上